

人生の難題

進学組

アーカー ミイン ミヤツ

なぜ私たちは生きているのか。正義とは何か。何が正しくて何が間違っているかを誰が決めるのか。真の平和とはどんなものだろうか。これらの質問に答えるのは難しい。答えがないのか、それとも多くの答えがあるのか。私はこの2年、人生で最も困難な時期を経験してきた。射撃、砲撃、殺される人々、絶望、飢え、恐れ、そして無力感…。これは私の人生の一部となった。私は2021年2月1日ミヤンマーで起こった軍事クーデターを目撃していた。それは本当に私たちの生活を完全に変えた。電気のない生活をする方法と、可能な限り安全を保つ方法、そしてこのような時代の中で自分の心を強く持つ方法、そしてこのような悲惨な状況下で生活することを学ばなければならなかった。

ご存知のように、「悪いこと」が私たち自身ではなく他の人に起ると信じるのが人間の常であるため、これらのごことを考えるのは不可能すぎるように思われた。しかし、不幸がやってくると、私たちは驚いたり、混乱したり、怖がったり、怒ったり、悲しんだりする。思い描いていた計画が思い通りにいかず、希望や夢がほぼ破壊され、家族や友人を失い、その中で生きる意欲を失い、頑張ることでもできなくなった日々の中でただ一つよかったことは私がお人々についてもっと学べたことだ。その間、いつも考えていた。平和のために人を殺す必要があるのか。人を殺したら、本当に平和は訪れるのか。平和のために、本当に自分自身に人を殺すという役割を与えることができるのだろうか。ここである映画「寄生獣」のセリフを借りたいと思う。「人類の数が半分になったらいくつかの森が焼かれずにすむだろうか。人間の数が100分の1になったらたれ流される毒も100分

の1になるだろうか。」この世界を醜くしている犯人は私たち人間なのだろうか。戦争、紛争、人間の搾取に満ちたこの世界のどこで平和を見つけることができるのだろうか。嫌な世界だと言ったら、言い過ぎだろうか。2年前まで、私は素晴らしい時間を過ごしていた。コロナウイルスも、軍事クーデターや内戦もなかった。それから突然、最悪の時間を経験しなければならなかった。まるで世界が私たちをだましているかのようなだった。私たちが気付かないうちに人生のすべてが非常に速く変化するという事実は、人生の最良のことでもあり、最悪のことでもあると知った。私たちは貴重な時間のすべてを使い、ここで明日を昨日よりも良くする方法を考えている。しかし、分かったことはただ一つ、私たちは明日について何も知らない、あるいは明日があるかどうかさえ知らないということだ。しかし、同時に私たち人間がとても素晴らしいものだということも知った。そんな残酷

な世界であったとしても生きるために頑張る
 人は少なくないのだ。希望を持ち、強く生き
 よう^と人々^とどんなに厳しく過酷な世界でもタ
 ルマのように倒れる度に立ち上がりよりよく
 生きようとしている人々は非常に多い。まさ
 に七転び八起きである。
 私は来日できてよかったと思う。トラブル
 から抜け出せるからではない。日本は私の視
 野を広げてくれた。日本は私に、どんな困難
 にあっても、私が生きている限りあきらめて
 はならないという教訓を心に留めておくよう
 に教えてくれた。祖国はまだ平和ではないが、
 まだまだ国の両親や家族のことを心配する日
 々は続くが、そして上記の質問に対する答え
 はまだ見つからないが、私はとにかく何とか
 して、最善を尽くすことによって短い人生を
 楽しく過ごすことにした。
 どう生きるべきか。このことを考える時、
 私は中国の哲学者老子の「上善如水」という
 言葉を思い出す。きっとそう^{なの}だろう。そして、

ある日本語の先生から「柔よく剛を制す」と
いう諺も習った。柔らかいものがかたくて強
いものより強いということだ。したがって、
水のように日頃から万物に利益を与えて、常
に謙虚でしかも柔軟であって、執着が無くさ
わやかに振舞って、時には大暴れするほどの
実力を秘めながら生きていこうと思う。